

編集後記

本誌17号は、2016年6月に群馬大学で開催された本学会年次大会の基調講演、シンポジウム、研究発表要旨のほか、寄稿論文1本と書評論文2本を掲載したが、この後記では特に寄稿論文について一言触れておきたい。

この論文は「他人の配偶者の呼び方」をテーマとしたアンケート調査の分析である。配偶者の呼び方で、従来ジェンダー学の立場から疑問視されてきた「主人・家内」（自身の配偶者に対する呼称）や「ご主人・奥さん」（他人の配偶者に対する呼称）などが、近年ジェンダー・ニュートラルな言葉に取って替わられつつあること、そして「夫さん・妻さん」なる「新呼称」の使用が将来広がっていく可能性と期待とが示されている。この調査結果と分析はもとより、SNSという最新のコミュニケーション・ツールを利用してアンケートが実施されている点も非常に興味深い。論文執筆者の水本氏は、インターネット上では配偶者の呼称をどうするべきかという議論が思いのほか多く見られると言っているが、匿名性を特徴とするメディアでは発言者の本音が出やすいということを考えると、案外、早い時期に配偶者の呼称のジェンダー・ニュートラル化が実現するのかもしれない。

最後に、本学会では、現会員や新会員による年次大会での研究発表、さらに学会誌への研究論文の投稿を心よりお待ちしております。

(第17号 編集委員長 斎藤理香)

編集委員 (*は委員長)

小川早百合、*斎藤理香、谷口秀子、因京子、渡部孝子

日本語とジェンダー 第十七号

2017年12月発行

編集者 日本語ジェンダー学会
学会誌編集委員会

発行者 日本語ジェンダー学会

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

群馬大学教育学部

渡部孝子

TEL 027-220-7355

E-mail jimukyoku@gender.jp

ISBN 4-9900828

[目次に戻る](#)